

事業中間報告書（11月30日時点）

コース	<input type="checkbox"/> 自主事業コース <input type="checkbox"/> 協働市民提案コース <input checked="" type="checkbox"/> 協働行政提案コース
事業名	コミュニティ駄菓子屋
団体名	倉敷東学区社会福祉協議会
担当課	健康長寿課 地域包括ケア推進室

1 事業の概要

事業計画書（様式第2号）に記載した「4 計画の概要と対象者」を転記してください。

- ・駄菓子屋開催日の案内チラシのみでは無く、町内に結果報告の印刷物配布等も行い、住民（特に高齢者）に楽しそうな場所と感じて戴くように宣伝する。
- ・世代間のコミュニケーションを深めるため、来客者に積極的な挨拶・声かけを行う。
- ・運営する高齢者の負担感を減らすため、楽しい企画の立案と新たな担い手の発掘を行う。

2 アウトプット（直接の結果）の達成状況

事業計画書（様式第2号）に記載した「5 アウトプット（直接の結果）」の「指標」及び「事業実施後の数値目標」を転記し、11月30日時点の達成状況を数値で記入してください。

指標（転記）	事業実施後の 数値目標（転記）	11月30日時点の達成 状況
・「だがしや」の開店回数	12回/年間	4月～毎月開催で計8回 4月55名、5月49名
・参加人数	毎回100人以上	6月77名、7月42名 8月43名、9月25名 10月42名、11月64名

3 事業の課題と改善策

事業を実施する中で見えてきた課題と、今後の改善策を記入してください。

- ・メインのイベントを毎回企画することで参加者は集いを楽しんでいる。また、高齢者による（英字）新聞による買い物袋も定期的に供給された上での参加など、生きがいや居場所作りも少し定着してきた感がある。さらにはこのような世代間交流を実施する中で、子育て中のパパ・ママさんも参加されるようになり、彼らも居場所を望んでいることが分かった。そこで今後も気軽に参加できるよう宣伝を工夫（紙媒体+ネットの活用や、子育て中の団体と繋がりのある生活支援コーディネーターを通じた周知の促進）したい。

・倉敷中心部に位置するため、真備の水害により学区内の借上げ型仮設住宅に転居された方も近くに多く居られる。災害後の活動で、その方々と地元との繋がり等のための居場所になっても良いのではないかと感じるようになった。今後、生活支援コーディネーターを通じた真備の方々向けのイベント等でコミュニティだがしや事業の周知を図り、だがしやが皆さんの繋がるきっかけの場所としたい

・美観地区にある東町駄菓子屋を参考にして掲げた参加人数は目標未達であるが、今後も更なる周知を図るため、考えられる場所に開催案内のチラシを配布することによっても参加人数を増やしたい。

4 事業実施記録

実施した事業の詳細を記入してください。

実施内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の人数
駄菓子屋事業 2 年目準備 事業継続説明・健康長寿課初顔合わせ	平成 30.04.11	幸町会館	13	9
駄菓子屋開店（毎月第 3 土曜日） メイン企画は下記の通り				
4 月 折り紙細工	平成 30.04.21	幸町会館	6	49
5 月 バルーンと手品	5/18	〃	7	42
6 月 手遊びと紙芝居(FM ぐらしき取材)	6/16	〃(倉高 5 名も)	7	65
7 月 シャボン玉とスライム作り	7/21	〃	12	30
8 月 タヌギ、けんだま(しらかべキッズ)	8/15	〃	7	36
9 月 カブラあそび	9/15	〃	7	18
10 月 ペットボトルキャップで遊ぼう	10/20	〃	6	36
11 月 射的で遊ぼう	11/17	〃	10	54
前月結果報告・今後の準備や意見交換				
毎月の駄菓子屋開店前に担当者で打合せ	4/12、5/8、6/2、7/12	倉敷町家トラスト	各 2	
中間報告と三年目をどのようにするか	9/13	幸町会館	7	7
健康長寿課との打合せ	4/11、5/11、7/03	メール		
中間報告と今後の予定依頼	10/27	電話とメール		
他地区への展開のための活動				
長寿課のHPにイベント情報掲載	平成 30.05～	長寿課HP		
長寿課とともに広報ぐらしき原稿作成	平成 30.06 平成 30.07	不採用 広報ぐらしき 9 月号		
地区社協会長としての広報				
生活・介護支援センター講座で活動紹介	平成 30.11.18	健康福祉プラザ	右記以外 9	16 名

以上